

# 平野運転士への責任転嫁を許すな

全ての乗務員・全国鉄労働者が、東中野駅事故の経過の中で、いちばん怒っていることは「ラジオを聞きながら運転していた」というデマ宣伝である。これこそ、事実と全く違うデマ宣伝そのものである。平野運転士が瀕死の状態に乗務員室からレスキュー隊員に助け出されたとき、ラジオはポケットから、エアホーンを巻かれた状態で出てきたのである。JR東日本の関係者が何人もそれを見ている。マスコミでも、その事実が一部報道されているにもかかわらず、突然、「ラジオを聞きながら運転」の大合唱が開始されたのだ。

## 労働者への責任転嫁 職場の怒り

職場では、  
「これは、乗務員に全責任を押しつけ、社長や重役連中が助かるための謀略だ」  
「見ていろ。今に、下へ行くほど重い処分が発表されるぞ」  
「乗務員（労働者）は、死ねば全責任を押しつけられ、生きていても留置所で拷問みたいな取り調べで責任を押しつけられる」  
「乗務員（労働者）は、死ねば全責任を押しつけられ、生きていても留置所で拷問みたいな取り調べで責任を押しつけられる」

「乗務員（労働者）は、死ねば全責任を押しつけられ、生きていても留置所で拷問みたいな取り調べで責任を押しつけられる」  
「乗務員（労働者）は、死ねば全責任を押しつけられ、生きていても留置所で拷問みたいな取り調べで責任を押しつけられる」

- ① 過密ダイヤによる列車遅延・ダイヤの乱れ、
  - ② 「三〇秒遅れても処分」という状況下で、強制されている乗務員の無理な回復運転、
  - ③ 構内閉塞信号機による短小閉塞区間、
  - ④ 線路のカーブや勾配などによる見通し不良、
- これらの事故の真の原因を暴き出し、改善させるために、営利第一主義と強権的労務支配路線のJRを相手に、国鉄労働者に闘う以外のどんな道があるというのか。

## 当局の安全切り捨て政策粉砕！

動労革マル・鉄道労連は、  
「事故の原因は調査中であり確定的なものとは不明である」  
「国労は『ダイヤ改正』、『労務管理』、『不当労働行為』などと、理由にもならない理由をあげつらい、あたかも事故防止を取り組んでいるかのような言動をはいている」

「千葉労は、『国鉄分割・民営化したからだ』とし『安全運転闘争』などと称し『ダイヤ改正前

のスピードに戻せ』と要求している。これらの主張では事故の再発を防止するものとならないことははっきりしている」  
などとJR当局を代弁している。（いずれも東鉄労千葉地本第三回定期委員会決議）  
では、東鉄労自身は何をやるというのか。  
「労使一致」で「お客様に安心してご利用頂けるJRへの信頼感」が獲得できることなど決してありえない。

JR総研の保安システム研究室が「安全性の評価に関する研究について」の中で、「致命的な事故が起らない限り、現行の輸送方式、これをどこまで合理化できるかを明らかにすることが当面の最大の関心事である」と、安全の切り捨てを宣言しているのだ。

動労革マル・鉄道労連の「労使一致」方針とは、労働者殺しの推進方針である。

## 動労千葉・総連合へ結集しよう！

動労革マル・鉄道労連も「平野運転士がラジオを聞きながら運転していた」というデマキャンペーンに対しては、さすがに追従できないとみえて「イヤホーンは巻かれて制服のポケットに入っていた」とし、「『死者にムチ打つ』報道」であるとしている。

子供が線路に石を置いても「謀略」というほど「謀略」好きの動労革マルが、途中から突然変更された「ラジオ」についての報道に対して、「謀略」とも言えず、「乗務員への責任転嫁」とも言えず、立往生しているのである。

全ての運転職場の労働者は、動労千葉・総連合の闘いへ結集し、労働者への責任転嫁を許さず闘い抜こう！

# 東中野駅事故の真の原因は 4.1分割・民営化体制にある <その2>

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！